

TKK 3450形 デハ3499 最晩年タイプ

Nゲージボディ未塗装組立キット【トレーラー車】

組立説明書



製品概要

TKK3450形は、1931年～1936年の間に、日本車輛製6両・川崎車輛製44両の計50両が製造されました。1形式50両ものまとまった製造数は戦前の私鉄車両としては異例の多さで、1980年代まで1両も欠けることなく活躍しました。

各種更新を受けつつ平成元年まで走り続けたため、その外観形態は多岐にわたっており、“1両として同じ仕様の車両は存在しない”とまで言わしめたバリエーションの豊富さも人気の一つです。

nano factoryでは、この名旧型車のモデル化にあたり、現役末期まで両運転台で活躍し、検測車や工場入場車・入替車の各種牽引車として、また、検査時の予備車両として代走を務めるなどマルチに活躍した川崎車輛製ラストナンバー“デハ3499”の最晩年の姿を選定して、3Dプリントにて皆様にご提供いたします。

未塗装板状キットですので、TKKデハ3499としてはもちろんのこと、細部加工で他の車番に改造したり、切り継ぎ等の加工で往年の各社旧型車を再現したりしてお遊びいただけます。

製品仕様

製品名：TKK 3450形 デハ3499 最晩年タイプ
Nゲージボディ未塗装組立キット【トレーラー車】

数量：TKKデハ3499 1両分

内訳：

ボディ・屋根・床板：

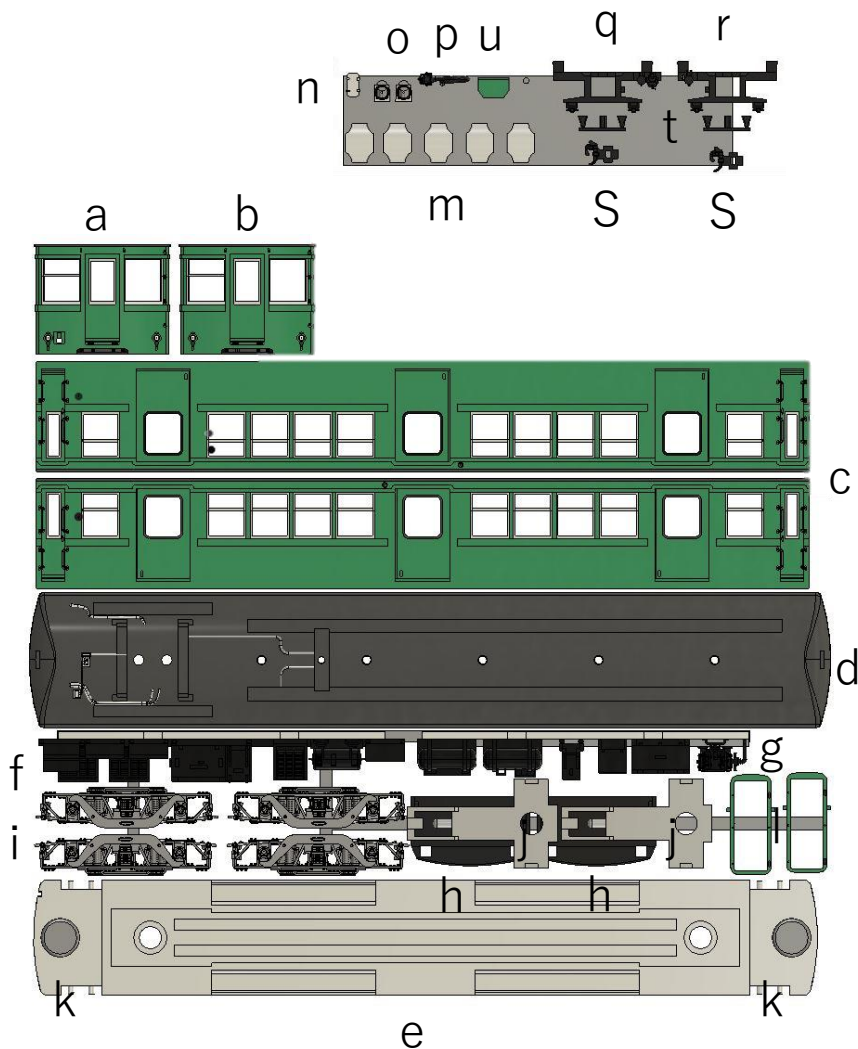
- a:貫通前面a：1
- b:貫通前面b：1
- c:側板：2
- d:屋根板：1
- e:床板：1

床下機器・台車類：

- f:床下機器a：1
- g:床下機器b：1
- h:ATS受電器台座：2
- i:川崎BW台車枠：4
- j:台車ボルスタ：2
- k:台車中心ピン：2
- l:幌枠：2

付属パーツ：

- m:ベンチレーター：5
- n:避雷器：1
- o:ヘッドライト：2
- p:ジャンパ線：1
- q:ATS受電器a：1
- r:ATS受電器b：1
- s:密着自動連結器：2
- t:連結器胴受：2
- u:渡り板：1



別途必要品：完成には下記の社外品が必要です

PT3/43/4306パンタグラフ：いずれか1

Φ5.6絶縁車輪：4

窓ガラス用透明板：前面2・側面2

車体表記インレタ：1(トレジャータウンTTL803-11東急3000系標記 推奨)

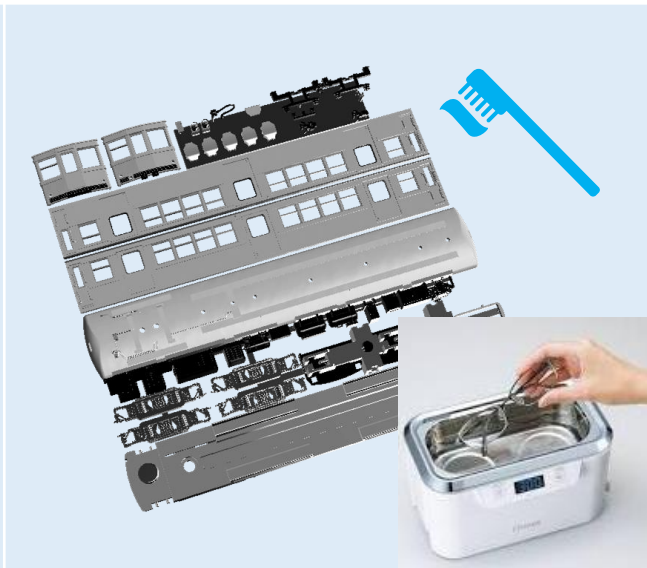
組立説明・手順 (TKK3450形 トレーラー車共通)

1. 全てのパーツを中性洗剤で洗浄します

パーツ表面の油分を取り除き塗料の定着を良くします。

このとき歯ブラシを使用し、ぬるま湯で丁寧に擦るとよいでしょう。

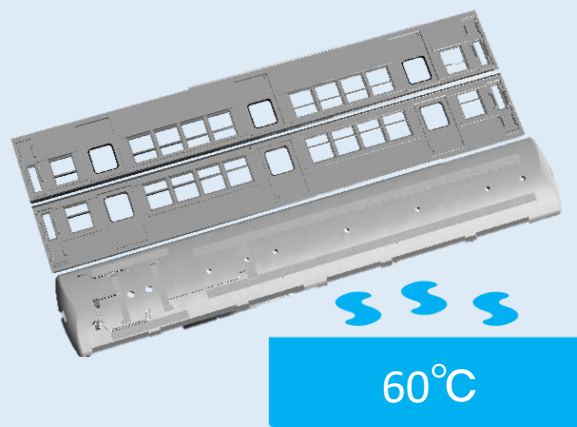
超音波洗浄器を使用すると、入り組んだ場所まで綺麗に洗浄できます。





2. 反りのあるパーツは60℃程度のお湯に浸し、手で矯正します

ボディや屋根板など、細長い板状のパーツは反りがある場合があります。軽微な反りはボディ接着の過程で矯正されますが、強い反りは60℃ほどの熱湯に浸すことにより事前に矯正することができます。

熱湯を使用する際はやけどに十分ご注意ください。また、高温すぎると変形の原因となりますのでご注意ください。

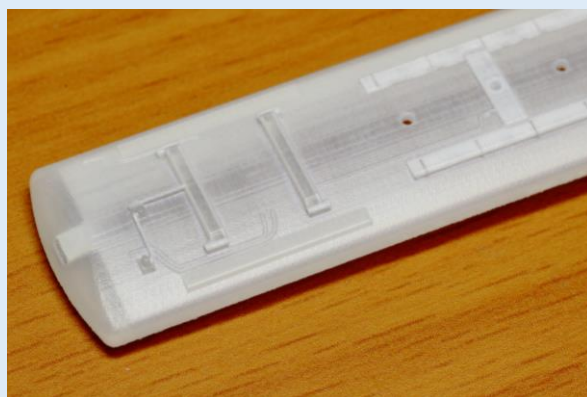


  やけどに注意

3. 積層痕形目立つ場合は、紙やすりで削ります

ボディや屋根板などの平面な箇所は、3Dプリントの特性上積層痕と呼ばれる木目のような凹凸が発生します。

そのような箇所は、#600～#1200程度の紙やすりで削り平滑にしてください。削りすぎてディテールを損なわないようご注意ください。



組立説明・手順 (TKK3450形 トレーラー車共通)

4. ボディ4面と屋根板を瞬間接着剤で接着します

3Dプリントの亚克力素材はプラモデル用接着剤では付きません。瞬間接着剤またはゴム系接着剤を使用します。

瞬間接着剤は、ゲル状の遅乾タイプを使用すると位置合わせが楽になります。

また、瞬間接着剤は白化現象が生じますので、塗装後や透明パーツに使用する場合はゴム系接着剤か、白化防止タイプの瞬間接着剤を使用するとよいでしょう。



妻板貫通扉の有無と屋根板パンタ台の有無をよく確認して接着しましょう
デハ3450は貫通側にパンタ台が位置します


5. 全てのパーツにサーフェイサーを吹き付けます

3Dプリントの亚克力素材は半透明なため、サーフェイサーで下塗りして透けを防止します。

サーフェイサーは#1000～#1200のスプレータイプがよいでしょう。

小さな付属パーツ類は特にディテールが埋まりやすいため注意します。



 溶剤の吸飲に注意


6. 屋根部分をマスキングし、ボディを塗装します

塗装方法は様々あるため、お客様のやりやすい方法で塗装してください。
テールライトレンズ部はマスキングゾルで保護すると簡単です。

弊社では、新水性塗料“アクリジョン”を調色しエアブラシで塗装しています。
臭いが大幅に軽減され、体や環境にやさしいためおススメです。

屋根色はサーフェイサーの色がジャストなのでそのまま適用しています。



 溶剤の吸飲に注意

組立説明・手順 (TKK3450形 トレーラー車共通)

7. 床下機器や台車、各種パーツを塗り分けます

床下機器・台車・ジャンパ線・ATS受信器・連結器・連結器胴受け・ヘッドライト側面は黒で塗装します。また、幌受と渡り板は車体色と同じライトグリーンに塗り分けます。

ヘッドライトレンズ部はマスキングゾルで保護すると簡単です。

その他のパーツは屋根色と同色のライトグレーに塗りますが、サーフェイサーそのままでもよいでしょう。



細かいパーツの塗り分けはランナーについたまま行くと簡単です

8. ボディに色を差します

窓サッシに銀、ドア窓Hゴムに黒、テールライトにクリアレッド、アンチクライマーに黒をそれぞれエナメル塗料で色差しします。

窓サッシとドア窓Hゴムに色差しする際は、烏口を使うと便利です。

はみ出した箇所は、ボディの下地を傷つけないよう丁寧に爪楊枝で削り取ります。



烏口にエナメル塗料を垂らし毛細管現象を利用して色を差します



9. 窓ガラスを接着します

窓サイズに切り出した透明なプラ板や塩ビ板をボディ裏からゴム系接着剤で貼り付けます。

普通の瞬間接着剤は白化現象により透明パーツを白く濁らせてしまうので使用しないようにしましょう。



組立説明・手順 (TKK3450形 トレーラー車共通)

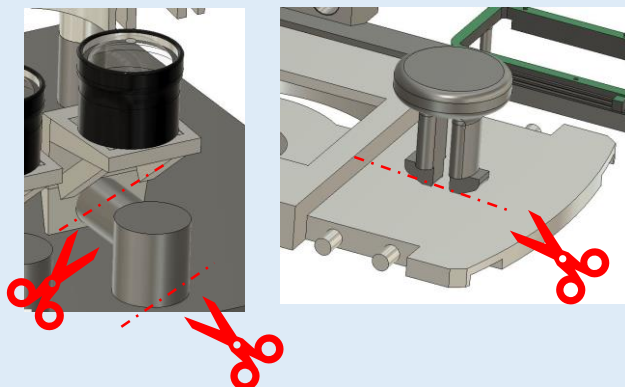
10. 各種パーツ類をランナーから切り離します

パーツ類は、差し込み式パーツの場合取付足を残してランナーから切り離してください。

ヘッドライトは、一度ランナー根元よりカットし、次にヘッドライト差込突起を傷つけないようランナーの残りをカットします。

台車中心ピンは床板とくっついていますが、中心ピンの根元をカットします。

カットする際はパーツを傷つけないようご注意ください。



差し込み式パーツの取付足を誤って切除しないようご注意ください

11. パーツをボディに差し込みます

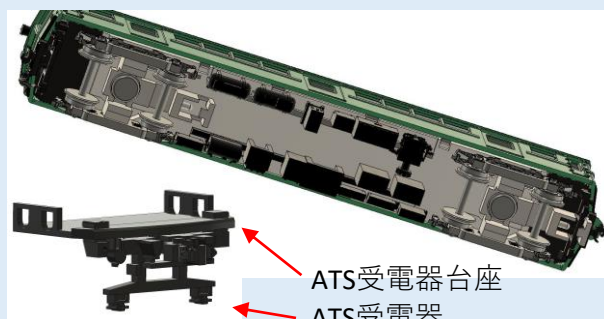
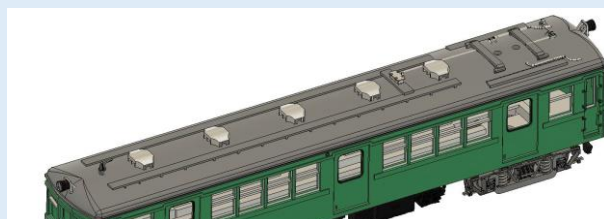
ヘッドライト、ベンチレーター、避雷器、列車無線アンテナを屋根上に取り付けます。

ATS受電器はATS受電器台座と組み合わせ、さらにATS受電器bを前面のジャンパ線受の有る側に合わせて床板に取り付けます。
(TNカプラーを取り付ける際は必要ありません)

台車枠はボルスタに差し込み、社外品のΦ5.6絶縁車輪を取り付け、中心ピンを使用して床板に取り付けます。

ダミー連結器やTNカプラーを使用する場合はカプラー受けをカットしてください。

床下機器はゴム系接着剤で床板に接着します。



12. ボディと床板を組立て、残りのパーツを取り付けて完成!

ボディと床板を組立て、連結器と連結器胴受けを組み合わせたものをボディにゴム系接着剤で取り付けます。(非貫通側の胴受けはボディに表現されているため、連結器のみを直接ボディに取り付けます)

貫通扉側には幌枠と渡り板をゴム系接着剤で取り付けます。

最後にジャンパ栓と社外品のパンタグラフの取付、ナンバーや社章などの表記類を入れて完成です。



完成!